

## 病害虫発生・防除情報メールサービス

大阪府環境農林水産部農政室

病害虫の越冬量を低下させ、来春以降の発生抑制につなげましょう。

## 特に注意！（12月）

## 水稲（越冬対策）

## ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）

- ・ 耕うん機などの土に貝が付着することがあるので、移動の際はしっかり土を落としましょう。
- ・ 刈り取り後、耕うんして貝をひき潰したり、地表で寒気にさらし凍死させて越冬貝を減らしましょう。
- ・ 本貝には人体に有害な寄生虫（広東住血線虫）がいる場合があるため、ゴム手袋やゴミ拾い用トングなどを使用し、素手では扱わないようにしましょう。  
もし、素手で触った場合には、石けんで手をよく洗うようにしましょう。

## バラ科果樹（もも、すもも、うめ等）

## クビアカツヤカミキリ

- ・ 次年度以降の羽化・成虫の分散を防ぐため、被害が大きい樹は伐採し、伐採した枝や幹は、ほ場に放置せず処分しましょう。
- ・ 伐採後すぐに処分できない枝や幹、伐採後の切り株については、ネットやビニルシート等で2重に覆い成虫が分散することを防ぎましょう。

## たまねぎ

## べと病

- ・ 苗床・定植後に、作物残さなどから感染し、越年罹病株として来年1～2月に病徴を現し、周辺への伝染源になります。
- ・ ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤、ダコニール1000、ランマンフロアブルなどを予防的に散布しましょう。



クビアカツヤカミキリのフラス



たまねぎべと病（苗における発病状況）\*

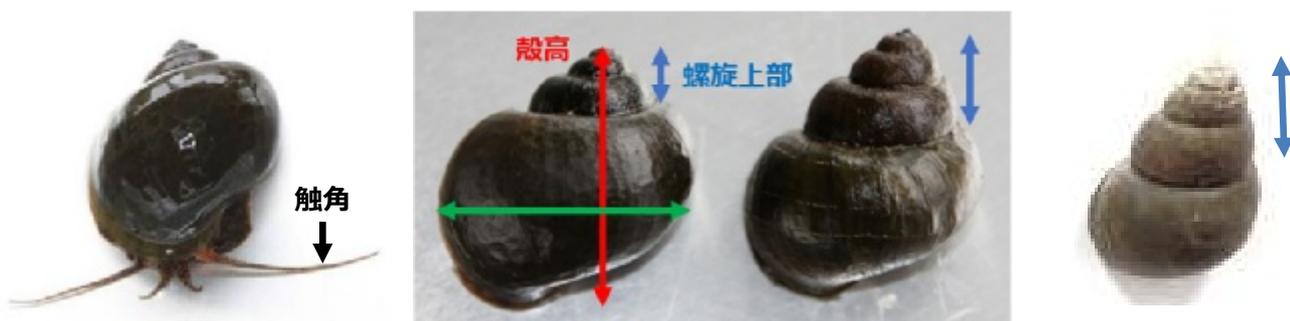
次回の情報は12月下旬にお知らせします。

◎「防除指針」<http://www.jppn.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>

※農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

## 水稻(越冬対策)

### ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)



ジャンボタニシ  
(スクミリンゴガイ)

ジャンボタニシ

マルタニシ

ヒメタニシ



注) 当該項目「ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)」の写真は、農林水産省リーフレット「ジャンボタニシによる水稻の被害を防ぐために」より引用。

#### 特徴

- ◆ 成貝の殻高は2～7cm程度。
- ◆ 他のタニシ類に比較して、螺旋上部の長さが短く、殻径と殻高がほぼ同じである(上部写真参考)。
- ◆ 主に田植え直後(約20日後まで)の苗が食害され、欠株になる。
- ◆ 年々発生地域が拡大している。

#### 防除のポイント

- ◆ 刈り取り後、耕うんして貝をひき潰したり、地表で寒気にさらし凍死させて、越冬貝を減らす。
- ◆ 耕うん機などの土に貝が付着することがあるので、移動の際はしっかり土を落とす。
- ◆ 本貝には人体に有害な寄生虫(広東住血線虫)がいる場合があるため、ゴム手袋やゴミ拾い用トングなどを使用し、素手では扱わないようにする。もし、素手で触った場合には、石けんで手をよく洗う。

### 縞葉枯病(ヒメトビウンカ)



縞葉枯病  
(ひこばえでの病徴)

#### 特徴

- ◆ 縞葉枯病は、ヒメトビウンカにより媒介されるウイルス病である。
- ◆ 発病したひこばえをヒメトビウンカが吸汁して、保毒する。

#### 防除のポイント

- ◆ ウイルスに感染したひこばえは、本病の伝染源となる恐れがあるので、早めに刈り株をすきこみ、ひこばえを処分する。

## バラ科果樹(もも、すもも、うめ等のサクラ属)

## クビアカツヤカミキリ



## 防除のポイント

- ◆被害が大きい樹は伐採し、破碎や焼却することが望ましい。
- ◆伐採した枝や幹はほ場に放置せず処分する。すぐに処分ができない場合は、ネットやビニルシート等で2重に覆う。伐採後の切り株についても、ネットやビニルシート等で2重に覆い成虫が分散することを防ぐ。

## 伐採後の切株について



## 処分に伴う運搬について

- ◆本種は特定外来生物に指定されており、伐採樹であっても、内部に幼虫が潜んでいる場合は運搬が制限される。このため、処分のための運搬であっても市町村の指示に従うこと。
- ◆市町村焼却施設(もしくは市町村の清掃工場)で焼却可能な場合は、ネットで被覆するなどの分散防止措置を実施の上、現地より運搬して焼却する。

## 野焼きについて

- ◆廃棄物の処理と清掃に関する法律第16条の2により、野焼きは原則として禁止されている。一方で施行令第14条第4項において、「農業を営むためにやむを得ないものとして行われる廃棄物の焼却」については例外とされている。  
例外に該当するかどうかは市町村によって異なるため必ず確認し、なるべく焼却施設にて焼却する。

クビアカツヤカミキリの特徴および防除方法の詳細については、下記リンク先をご確認ください。

- 令和3年5月12日発表 防除情報「クビアカツヤカミキリに注意！」  
[http://www.jppn.ne.jp/osaka/R3rd/boujyoiyouhou/R0305kubi\\_aka.pdf](http://www.jppn.ne.jp/osaka/R3rd/boujyoiyouhou/R0305kubi_aka.pdf)
- 技術資料「クビアカツヤカミキリの生態と防除対策」  
[http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/Aromia\\_bungii/Aromia\\_bungii\\_manual\\_R3.3.pdf](http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/Aromia_bungii/Aromia_bungii_manual_R3.3.pdf)

## 温州みかん(越冬対策)

## ミカンハダニ



ミカンハダニによる葉の被害※

## 特徴

- ◆果実や葉に寄生し、吸汁する。吸われた部分は、色が抜けて白くなる。
- ◆日当たり、風通しの悪い密植園や枝葉の混みあったところで多発する。
- ◆冬期は低温のため、増殖は抑えられるが生息はしている。春になり暖かくなると、増殖を開始する。

## 防除のポイント

- ◆収穫後の園では、越冬期に、**機械油乳剤95**、**ハーベストオイル**、**スプレーオイル**等を散布する。
- ◆樹勢が弱っている場合は、冬期のマシン油乳剤で薬害（落葉助長）が生じやすいので、3月中～下旬に成分97%製剤のマシン油乳剤（**ハーベストオイル**等）を散布する方がよい。

## カイガラムシ類



ナシマルカイガラムシ※

## 特徴

- ◆葉や枝、果実に寄生し、多発した場合は、樹勢が落ち、果実の商品価値を低下させる。

## 防除のポイント

- ◆収穫後の園では、越冬期に、**機械油乳剤95**、**ハーベストオイル**、**スプレーオイル**等を散布する。
- ◆樹勢が弱っている場合は、冬期のマシン油乳剤で薬害（落葉助長）が生じやすいので、3月中～下旬に成分97%製剤のマシン油乳剤（**ハーベストオイル**等）を散布する方がよい。



フジコナカイガラムシ※

## 貯蔵病害



緑かび病

## 特徴

- ◆青かび病、緑かび病、軸腐病などがある。
- ◆青かび病や緑かび病は主に傷口から感染する。

## 防除のポイント

- ◆収穫時、果実に傷をつけないように注意する。
- ◆貯蔵時の庫内温度は5℃前後、湿度は80～90%にする。
- ◆収穫前に**トップジンMK水和剤**（軸腐病、青かび病、緑かび病）や**ベフラン液剤25**（青かび病、緑かび病）などを散布する。
- ◆果実が濡れている時は収穫しない。貯蔵を始める前に果皮を乾燥させる（予措）ことで貯蔵後の腐敗が少なくなる。

## トマト・ミニトマト(施設栽培)

### すすかび病



被害葉 表(左)

裏(右)※

#### 特徴

- ◆日照不足で樹勢が落ちると発生しやすい。
- ◆近年増加傾向にある。葉かび病より、葉裏のかびが黒く見えるが、肉眼で見分けることは困難である。葉かび病抵抗性品種で症状が見られる場合は、すすかび病を疑う。

#### 防除のポイント

- ◆発生を認めたら、トリフミン水和剤、ファンタジスタ顆粒水和剤、アフェットフロアブルなどを散布する。

### 灰色かび病



被害葉

被害果

#### 特徴

- ◆施設栽培で発生が多い。20℃程度の多湿時に発生が多く、花がらや果実のがくから発生し、果実に被害が発生する。

#### 防除のポイント

- ◆発生を認めたら、ロブラール水和剤やファンタジスタ顆粒水和剤などを散布する。

## きゅうり(施設抑制栽培)

### 黄化えそ病



キュウリ黄化えそ病被害葉

#### 特徴

- ◆キュウリ黄化えそ病は、メロン黄化えそウイルス (MSV) によるウイルス病であり、キュウリ、メロン、スイカ、シロウリ、ニガウリに感染する。
- ◆MSVに感染すると、葉にえそ斑点を伴うモザイク症状や黄化などの症状を示す。
- ◆MSVは、ミナミキイロアザミウマによって媒介される。

#### 防除のポイント

- ◆MSVを媒介するミナミキイロアザミウマの防除の徹底が重要である。
- ◆施設内の残渣を処分し、施設内外の除草を徹底する。
- ◆栽培終了後、除草後に施設を2週間以上閉めきり、ミナミキイロアザミウマを死滅させる。

## 退緑黄化病



キュウリ退緑黄化病被害葉※

### 特徴

- ◆キュウリ退緑黄化病は、ウリ類退緑黄化ウイルス（CCYV）によるウイルス病であり、キュウリ、メロン、スイカなどに感染する。
- ◆CCYVに感染すると、葉に退緑小斑点を生じ、次第に小斑点が増加・癒合しながら徐々に黄化する。
- ◆CCYVは、タバココナジラミによって媒介される。

### 防除のポイント

- ◆CCYVを媒介するタバココナジラミの防除の徹底が重要である。
- ◆施設内の残渣を処分し、施設内外の除草を徹底する。
- ◆栽培終了後、除草後に施設を2週間以上閉めきり、タバココナジラミを死滅させる。

## あぶらな科野菜（キャベツ、こまつな、しろな等）

### 根こぶ病



キャベツのしおれ症状と生育不良\*

### 特徴

- ◆定植後1ヶ月頃から晴天の日中に葉がしおれるようになり、やがて葉色・生育が悪くなり、激しい場合には枯死する。

### 防除のポイント

- ◆あぶらな科野菜の連作を避ける。
- ◆土壌pHが低い（酸性）と発生しやすいので、石灰質資材等を施用しpH7程度に調整する。
- ◆前年発生した畑では、キャベツ、はくさい、ブロッコリー、カリフラワーなどでは定植前に、非結球あぶらな科葉菜類やかぶなどでは種前に、**ネビリュウ**や**オラクル粉剤**を土壌混和する。
- ◆土壌水分が多いと発生しやすいので、多湿ほ場を避ける。

### 菌核病



キャベツでの発病

### 特徴

- ◆暖冬時に発生が多い。

### 防除のポイント

- ◆菌核が土中に残って伝染源になるので、被害株は、ほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆なばなやレタスなど、本病が発生しやすい作物との輪作を避ける。水田との輪作は防除効果がある。
- ◆発生が予想される場合は、結球開始期から**ロブラール水和剤（キャベツ、はくさい）**、**セイビアーフロアブル20（キャベツ）**などを予防的に散布する。

## たまねぎ

## べと病



べと病（苗における発病状況）＊

## 特徴

- ◆ 苗床・定植後に、作物残さなどから感染し、越年罹病株として来年1～2月に病徴を現し、周辺への伝染源になる。

## 防除のポイント

- ◆ ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤、ダコニール1000、ランマンフロアブルなどを予防的に散布する。